

令和6年度

おらほのまちづくり支援事業

実施事業一覧

No.	区分	事業名	団体名	代表者名	交付額 (円)	事業概要	成果
1	公益活動	童子下いきもの調査による環境省・自然共生サイト登録（OECMの国際データベース登録）事業	童子下いきもの研究会	代表 阿部 博之	300,000	【目的】 生物多様性保全・持続可能な地域農業・地域社会に貢献する。 【内容】 地域のいきもの（動植物）やその生態、環境の研究調査を通して、町民・企業・研究者・大学・学校・行政等と連携し、人々が地域社会保全に参画することを促す。	「新童子下・童子下の田んぼ」が自然共生サイトの認定を受けた。OECMにも登録された。実質、国際的にも保全活動が認められたことになる。 ※OECMとは、国立公園や自然保護区などの従来の保護地域とは異なる、地域主導の保全活動が行われている地域を指す。
2	総合戦略	子育てしやすい町づくりへの取り組み、南三陸の子ども・子育て情報発信事業	南三陸子育てハッピープロジェクト	代表 内ヶ崎 彩	352,000	【目的】 南三陸町総合戦略 基本目標1「私たちは 豊かな自然のなかで とともに支えあい 世代をつなげます」 施策1-1 出産・子育てがしやすいまちづくり を目指し、 目標1 まちの子育て情報を当事者視点で整理し、子育て中の世代に届ける 目標2 まちの子育てが楽しくなる 目標3 まちの子育て仲間を増やす、子育てしやすい町づくり 【内容】 ・Instagramで情報発信 ・子育てイベント「みなはびひろば」開催 ・子育てに関する意見交換会「みんなで子育て作戦会議 しゃべりば」開催 ・みんなで一緒に行ってみるお出かけ日「いってみっぺ」 ・公民館活用の試行「公民館であそぼう」 ・その他会議、準備の打ち合わせ実施 ・他イベント参加	情報発信の強化 Instagramでの発信を積極的に行い、フォロワーが約200人増加。町内の子育て世代向けの情報提供が充実し、イベントや施設の認知度が向上。 子育てイベントの実施 「みなはびひろば」を開催し、延べ約350人の親子が参加。室内遊び場の提供やミニコンサート、ワークショップを実施し、交流の場を創出。「しゃべりば」において、町と市民が子育て環境について話し合う機会を提供。 コミュニティ形成 お出かけ企画「いってみっぺ」では、子どもたちが町内の自然や文化に触れる機会を提供。公民館を活用した遊び場の試行を実施し、室内遊び場の必要性を検証。
3	総合戦略	南三陸町自然史普及推進事業	南三陸ネイチャーセンター友の会	会長 山崎 浩子	917,000	【目的】 子ども達と自然研究者が出会う場を町に創出し、体験できる場を提供することで、故郷の自然史への興味関心を深め、大人世代にも多角的な視点から町の魅力を発見する機会をつくる。また「南三陸町自然環境活用センター」の本設に伴い、南三陸町内向けの普及支援活動も併せて本事業の目的とする。 【内容】 ・南三陸子ども自然史ワークショップ2024 ・自然史探検隊 ・南三陸自然史講座（普及活動）	町内外の学識者・有識者を交え、南三陸町内の自然史の魅力を幅広い世代に伝えることができた。南三陸町内の子ども達に、故郷の自然に直にふれる体験学習の機会を提供することができた。南三陸町自然環境活用センター及び南三陸町自然史の普及支援をすることができた。
4	総合戦略	【森里海ひと】地域資源活用の普及啓蒙事業	南三陸を化石で盛り上げる会 Hooks	代表 高橋 直哉	917,000	【目的】 「森・里・海・ひと」南三陸町の様々な資源を活用した、町内に向けた普及啓蒙の活動を通じ、①町民が地域資源の必要性と活用方法について考えるきっかけとなる取組み、②南三陸町の強みである観光業での実践に繋げていく事を目的とする活動を行う。 【内容】 ・ぬりえ展覧会開催 ・南三陸町内の子どもたちのアイディア実現のサポート ・普及啓蒙の為のワークショップや展示会の開催 ・地元向け普及啓蒙の為の体験ツアー開催 ・シンポジウム開催	国内でも有数の化石の産地でもある南三陸町の化石の魅力を広くPRすることができた。 今後の南三陸町の町づくりを担う若い世代のアイディアの実現サポートを通じて様々な世代が一体となり、地域全体を盛り上げていくことができた。
5	全町的	農業体験受入態勢整備事業	入谷の里山活性化協議会	会長 阿部 國博	350,000	【目的】 里山の様々な体験プログラムを造成・発展させ、教育旅行や体験学習の受け入れを促進していく。地域全体で一度に200人を超える子どもたちを受入れすることができる体制をつくり、交流人口を増やしていくための仕掛けを積み重ねながら、地域に経済効果をもたらしていく。 【内容】 里山の魅力を高めるため、食をメインとする体験イベントを展開し、地域の受入態勢の整備に努めた。昨年度実施した実証実験を踏まえ、内容をブラッシュアップしながら、参加者と受入者がともに満足度を高めるような里山体験イベントを実施した。	教育旅行や野外活動において、土に触れながら農業を学ぶことは必要な体験学習である。こうした実践を通じて、グリーンツーリズムの受入態勢を強化しながら、入谷地区の活性化を図っていきたい。食の里山プログラムとして、大いに活用できる実証実験となった。
6	全町的	里山文化交流事業	入谷の里山活性化協議会	会長 阿部 國博	640,000	【目的】 演劇や落語、映画などの本物の文化・芸術に接してもらい、住民の福利厚生を図りながら、文化芸術の意識が高まる里山地域づくりにつなげていくこと。老若男女の世代間交流が生まれ、文化的な里山地域になっていくきっかけにしていく。 【内容】 入谷に伝わる代表的な民話「ばば山」を基にアレンジした創作演劇作品を観る演劇会を開催した。昨年自力で実施し、好評だった落語会・映画交流会をブラッシュアップして開催した。	演劇や落語、映画など本物の文化・芸術に接してもらい、住民の福利厚生を図りながら、文化芸術の意識が高まる里山地域づくりにつなげていくきっかけになった。また、老若男女の世代間交流が生まれ、文化的な里山地域になっていくきっかけになった。
7	公益活動	林際カーシェア会地域コミュニティ活性化事業	林際カーシェア会	会長 山内 太一	300,000	【目的】 地域住民が車を共同で活用することによって、住民同士がお互いに助け合う地域づくりを行うことを目的とする。 【内容】 ・買い物ツアー活動 ・お出かけツアー ・外出支援活動 ・遊休農地を活用し地域内外交流および農作物等の販売	買物や外出全般における移動支援や遊休農地を活用し農作物栽培および販売を実施し、コミュニティ活性化と外出機会創出につながった。
8	全町的	南三陸の空に いのちを想う	彩プロジェクト	代表 佐藤 彩	683,000	【目的】 東日本大震災で犠牲となられた多くの方々を思い、3月11日を追悼と「いのちを想う日」として、次の世代にも継承していきたいため。 【内容】 ・「ココロ奏でる音楽のタベ」の開催 ・遠い空へ届けたい「私のココロの手紙」の募集、展示	長く「きりこ」を通したアートプロジェクトに関わってきた彩プロジェクトとして実施するにあたり、音楽や手紙など文化的要素を取り入れることにより、住民目線での新たな「追悼の形」を具現化することが出来た。このような住民参加型のイベントなどを今後も検討し、あの場所が「近寄りがたい場所」ではなく、「ココロを寄せ合う場所、集う場所」になり、長く町民に親しまれることで伝承にも繋がるのではないかと考えるきっかけとなった。